

研究ノート

韓国社会と「在日韓国人」2世、3世のアイデンティティの変容における一考察

—韓国留学経験者を中心に—

鄭 幸子

- I. はじめに
- II. 調査方法
- III. 留学形態
- IV. エスニシティー
- V. まとめにかえて

キーワード：逆移民、アイデンティティ、
エスニシティー

I. はじめに

現在、日本には約70万人の韓国・朝鮮籍の「在日」が居住し、大半が日本生まれの2世、3世である。⁽¹⁾ よっていわゆる「母国語」を話すことができない者が多い。生まれ育った日本でも「外国人」として扱われている「在日」2世、3世が、「母国」韓国での生活を体験した場合、エスニック・アイデンティティはどのように変容するのかという点を柱に、彼らのエスニシティーの諸相を探るのが本稿のテーマである。

II. 調査方法

韓国に留学した在日2世、3世を対象に、1991年の秋から冬にかけて個人面接という形で生活史およびエスニシティーを中心に聞き取りをし

た。インフォーマントは12名で、聞き取りはソウルと大阪で行なった。文化人類学において「スノーボール・サンプリング」と呼ばれる、知り合いを通じて調査対象者を広げていくという形でインフォーマントを得た。事前に詳細な質問票を準備し、その質問票に沿って聞き取りを進めたが、話者が自発的に話している内容に関してはそれを止めるようなことはせず、じっくりと話を聴いた。よって聞き取りは一人につき短くて2時間、長いと数日に渡って十数時間に及ぶこともあった。インタビューは話者の承諾を得て、テープレコーダーで録音し、後日テープおこしを行った後、分析に入った。この方法の長所は、話者の語りを正確に把握し分析できること、短所は、テープおこしに膨大な時間が掛かることだ。インタビューを初めとする人類学的なフィールド調査の手法については、例えば Sanjek の Fieldnotes、日本語で最近出たものでは社会学者である福岡安則の『聞き取りの技法』などを参照されたい。

III. 留学形態

「在日」が韓国に留学する場合、大きく「高校・大学(院)留学コース」と「語学留学コース」という2つのコースに分けることができる。以

(1) 以下、本稿の内容は、調査時の1990年代前半の状

況を伝えるものである。

下にその概略を説明する。

高校・大学（院）留学コース

韓国の首都、ソウルには「ソウル大 学 校 在 外 国 民 教 育 院」（以下、「教育院」と呼ばれる「海外僑胞」の為の教育機関があり、そこには大きく分けて2つの課程がある。

1つは「予備教育課程」といって、韓国の高校、大学（院）に入学を希望する「在外同胞」の韓国語能力と歴史知識、国民倫理などの「民族的基本素養」を培うことを目標にした約1年間の全日制の課程であり、これを修了すると希望の学校へ通常定員の枠外で「教育院」より特別推薦を受けられる。ただし近年は「教育院」経由の推薦入学の審査基準が上がり、推薦は受けられても必ずしも合格が保証されるわけではなく、希望校に入学できない学生が増加しているという話を聞き取りの中でたびたび耳にした。

「教育院」には他にも3カ月間の「短期教育課程」や「春・夏季学校」と呼ばれる2週間のプログラムがある。

いずれの課程も、基本的には日本の各都市にある「在日本大韓民国居留民団（以下、「民団）」が願書の主な受け付け窓口になっている。

「教育院」で発行された「母国留学の案内」という20ページ程のパンフレットの冒頭には、「母国留学の勧め」として以下の文章が掲げられている。

本院は全世界400万在外同胞子女たちの民族教育を統括推進する国立教育期間です。

” 韓国人としてのルーツを探し、・・・(中略)・・・誇り高い韓国人育成” を教育の目標にしています。

皆さんが民族伝統文化を継承し、アイデンティティを確立して、民族的自覚と主体意識を持つことによって立派な自我の実

現が可能であることを確信し、皆さんに母国留学を勧めたいと思います。

ちなみに、1988年5月1日付けの「在外韓国人母国修学生現況」という統計資料によれば、男子大学生417名、女子大学生296名、男子大学院生19名、女子大学院生17名となっている。

語学留学コース

大学の付属機関などに設けられている韓国語の集中講座などに留学するコースで、代表的なものとしては延世（ヨンセ）大学の「言語研究教育院（旧、語学堂（オハッタン）」や高麗（コリョ）大学の「民族文化研究所」などがある。

1年4学期制で1学期10週間。月曜日から金曜日まで毎日4、5時間ずつ、レベル別に10名前後のクラスに分かれて韓国語の語学研修をするというのが一般的な形式となっている。

私が本稿で取りあげるインフォーマントは、約1年間の「教育院予備教育課程」を修了後、大学に留学した「大学留学コース」で大学の4年生に在学中の人が3名と、「語学留学コース」の人が1名である。以下この2つのコースに絞って話をすすみたいと思う。

留学期間は、前者の「大学留学コース」が大学を卒業するまでに、「教育院」の期間を合わせて最低5年、後者の「語学留学コース」は、延世（ヨンセ）大学の場合を例にとるとレベルが1級（初級）から6級（上級）までの6段階に分かれており、1つの級を修了するのに通常約3ヶ月かかる。留学期間は目的などにより様々である。

IV. エスニシティー

今回は聞き取りの中から、母国に留学した「在日」2世、3世の中で、多くの「在日」留学生

がどこかに共感を感じると思われる4人の事例を中心に報告する。4人のケースが比較し易いように、それぞれのナラティブを以下の13の要素からとらえるよう試みた。

1. 留学以前のエスニック・アイデンティティー
2. 日本ででの被差別体験
3. 留学のきっかけ
4. 留学前の韓国語力
5. 韓国での被差別体験
6. 日本人観
7. 韓国人観
8. 「在日」観・「在米」観
9. 法的地位について
10. 結婚観
11. 留学後の進路
12. 韓国語ができることの意味
13. 現在のエスニック・アイデンティティー

データの中にはプライバシーに関わる部分もあるので、名前は仮名にした。聞き取り資料からの引用内の〔 〕は、文意を明確にする為の調査者による補足である。

●「今はもう韓国人」:「韓国人」型

韓国名、柳幸恵(ユヘンヘ)、通名は無い。関東地方の出身。両親が共に韓国で大学教育をおえている1世で本人は2世。22歳。専門職についていた祖父は仕事の関係で日本に住んでいたこともあり、朝鮮戦争の前に父の家族が渡日。母は父と結婚した後、日本に来る。母方のきょうだいは母を除いて全員、韓国に住んでいる。

日本ではまわりに自分たちの家族以外、韓国人はいなかったが、「両親が夏休みの研究発表とかも絶対韓国のことについてやらせたり」して、「韓国人として誇りを持って」と言われてきたと言う。

柳幸恵は2人きょうだいの長女で、弟も韓国

の大学に留学中。今は親が韓国で所有するマンションに2人で住んでいる。両親は現在も関東地方在住。

1. 留学以前のエスニック・アイデンティティー

『「在日韓国人なんだろうなー」っていう感じで、『韓国人だ』っていう意識はしようと思ってもできなかったっていうか。どういうところで韓国人なのかがわからないでしょう。頭の中で考えてるだけなんです。日本人ではないはずだし、でも私は日本語を使って、まわりの友達もみんな日本人だしね。『日本で住んでるのに国籍っていうことだけで私は韓国人なのかなー』とか。だから定義づけができないっていうか。ただ、ほんとに『韓国人』ってとってつけたような感じで。韓国語をきちんと喋れるわけでもないし『なんで私が韓国人なのか』っていう、きちんとした根拠っていうのがなんにもないわけでしょう。両親は『せっかく1年に1回〔韓国に〕行って韓国語習ってるんだから家の中でも韓国語を使いなさい』って強要したんですよ。だけど、きわだった差別とかはなかったけれども、みんな無意識のうちに韓国人を低く見てるっていうのをなんとなく感じてる部分があったんですね」。それに加えて「例えば小学校の夏休みに〔韓国に〕遊びに来ると、どう見ても日本よりも劣ってるわけでしょう。『韓国はなんでこんな遅れてるの!』みたいな感じで言っていると『まだ小さいから、そういうの、わからないんだ』とか、さとされたりしてたんですけど。ピンとこないことが多かったっていうか。『家の中で韓国語使いなさい』って言われても、韓国語喋るのが恥ずかしいような感じで。韓国語を使うっていう事に対する抵抗みたいなのが、ちょっとあったっていうか。日本人にもっとなりたいたいというのが無意識のうちにあったような気がしますよね」。

2. 日本で被差別体験

「意見が食い違った時とかに『なんだ、韓国人のくせに』とかいう感じで言われて。そのあとは続かないですよ。(笑い) やっぱり小学生です。でもそういうの聞いたりすると、『なんで私は韓国人に生まれたんだろう』とか『自分の国で生まれて育ちたかった』とか、それぐらいのことと思ってましたけど。中学に入ったぐらいから、まわりに理解のある友達が多かったから全然気にならなくなりましたね」。

3. 留学のきっかけ

「私は韓国に留学するっていうのは全然考えてなかったんですけど、父が『もし〔日本の大学に〕落ちた場合は韓国に行きなさい』とか言うんですね。私は日本で大学行くってことしか頭になかったんですね。じゃなかったら高校の時にアメリカに旅行に行って、すごく印象が良かったから『もし落ちたら韓国じゃなくてアメリカ』とか言ってたんですけど、父は『それは絶対駄目だから韓国にしなさい』って言うんですね。『英語を勉強する前に母国語をきちんと習いなさい』みたいな感じで。私は、もうその時点では韓国に対するいい印象っていうのが、あんまりなかったんですよ。でも結局日本の大学に落ちてしまって。最後まで結構踏んばったんですよ、『私は浪人するんだ』みたいな感じで。しかし「その時に韓国から日本に留学に来てた友達に『韓国の大学とか色々見て決めればいいんじゃない』」と言われ、「春休みに韓国に10日ぐらい遊びにきて結構楽しい思い出」ができた。「どうしても馴染めなかったら、また日本に帰ってね、浪人しなোসとかアメリカに行くとか道はいくらでもあるんだから、とりあえずお父さんとお母さんもそんな風に望んでるわけだし一度やってみようって感じで」韓国に留学することにしたと言う。

4. 留学前の韓国語力

「生まれたばかりの頃から、韓国語を習わせるためって言うことで夏休みとかを利用して1年に1度ぐらい、1ヶ月とか必ず韓国に来たので。〔韓国に〕来ると親戚の家に行ったりするので自然と耳が慣れるでしょう。最初のうちはやっぱり〔韓国語を〕話せないんですよ。でも帰る頃になると結構自由に話せるようになって。日本に帰ると使わないから、またすぐ忘れちゃって。ですけどずっとそれが積み重なって私がこっちに〔留学に〕来る頃には、まあほとんど聞き取りはできるような状態でした。「教育院」に入った時に〔韓国語の〕会話だけだったら1番上のクラスにいけたと思うんですけど読み書きができなかったの上から2番目のクラスに」入ったと言う。

5. 韓国での被差別体験

自分には「ない」し「弟にもないと思う」と言う。このことは留学当初から、ある程度韓国語ができたことと無関係ではないことが、他のインフォーマントの事例を見るとわかる。

6. 日本人観

「日本の人もオリンピック以降になると韓国に対する認識とかも、ずいぶん変わったでしょう。結構テレビなんかで韓国のこと紹介されたりとかして目が向いてきたわけじゃないですか。最近日本に休み中に帰ってね、新しく知り合った人なんかは韓国に対して興味を持ってる人が多いですよ。若い人とかだと昔の偏見とか言うよりは今の韓国に興味を持ってる場合が多いから」。

7. 韓国人観

「東方礼儀の国とか言って自分たちはすごく礼儀正しい民族だと思ってるでしょう。でも私は目上の人を敬うってとこ抜かして日本の方が

全然礼儀正しいと思うんですよ、他人に対してとかね。海外に出たりとかしても、ほんとにマナーの悪い韓国人が多いらしくて、もうちょっとそういうところをわきまえてほしいっていうか。(笑い)例えば旅行とかに行っても韓国料理が最高だみたいなね。キムチがなければ食べれないとかね、そういう言い方をするでしょう。もっと協調性が欲しいです」。

8. 「在日」観・「在米」観

「私は在美僑胞(チェミキョッポ)の方が〔よりこちらの韓国人に〕近いと思います。結構雰囲気とか見ても在日僑胞だとすぐ目について『あ、日本から来てるな』ってわかるけど、在美僑胞(チェミキョッポ)の場合だとあんまり区別つかない時も多いし。こっちに交換留学で来てる在美僑胞(チェミキョッポ)とか結構多いんですけど、見てると女の子なんかはアメリカナイズされてるんですよ。だけど男の子の在美僑胞(チェミキョッポ)見ると韓国を恋しがってる人がすごく多いっていうか。私が大学2年の時にニューヨークに行ったんですけど、そこで在美僑胞(チェミキョッポ)の友達がいる、その子たちが住んでる寮と一緒に2週間ぐらい住んでたんですね。男の子たちなんですけど在美僑胞(チェミキョッポ)もいるし移民してそんなにたっていない子なんかもいるんですけど、みんな集まって英語は使わないで韓国語使うようにしてるし、音楽なんかも私たちより全然韓国のに詳しいんですよ。韓国に行きたいって感じがしないみたいなこと言ってるんですね。女の子の方がどっちかって言うと話題とかファッションとか色んなことで〔アメリカの社会に〕馴染み易いのかなとも思うんですけど。考え方とかも在美僑胞(チェミキョッポ)の男の子ってすごく保守的な子が多くて。こっちに住んでる韓国人より逆にもっと保守的だったりすることとかあるんですね。それ見てるとすぐ

い不思議なんですけど」。

「在日僑胞が一番話してて楽し、わかり合えるような感じもするんですけど、私は生粋の在日僑胞あんまり好きじゃないっていうか、男の人の場合。「教育院」で知り合った人とか見ると、やっぱりどこか伸び伸びと素直に育った感じがしないんですね、話して受ける印象が。それに、ほとんど在日僑胞同士で固まって〔他に〕馴染もうとしないんですよ」。

9. 法的地位について

「〔指紋押捺の反対運動なんかは〕正直に言ったら、ほとんど関心がなかったです。韓国人に対してだけじゃなくて日本に住んでる外国人には、みんなそれ〔指紋押捺〕がされるわけでしょう。だからあんまりいい気分はしないけれども別にとりたててそれを不満に思うことはなかったですね」。

参政権については「『もっと日本の政治に参加したい』とか『参政権が欲しい』とか自分でそれを特に望んだりとかいうのはないですね。でも韓国でも参政権がない事実を目の前に突きつけられると、『ああ、自分はどっちつかずで宙ぶらりなんだ』っていう感じがしますね」。

10. 結婚観

「もし私が在日僑胞(チェイルキョッポ)と結婚した場合は多分、日本で住むことになるわけでしょう。私は韓国の1世の両親から育てられたけど、もし私が在日僑胞(チェイルキョッポ)と結婚して子供を育てる場合にね、子供がもっと宙に浮いた存在になっちゃうような気がするんですよ。韓国語を教育するのも不十分だし、かと言って私たちが日本の文化を徹底的に知ってるわけでもないでしょ。日本人っていうのは〔結婚相手として〕あんまり考えませんでしたけど、韓国人だったら韓国人でちゃんと根っこのあるところと一緒に同化するっていう

か、おんぶしたいって思ってたんですね。一応理想としては韓国人でちょっと海外の経験がある人っていうのがあるんですけど」。

11. 留学後の進路

「こっちで〔日韓の〕通訳のアルバイトとか何回かしたんですね。すごく楽しかったし自分に結構向いてるんじゃないかなとか思ったんですね。漠然となんの目的もなしにアメリカに行くよりは、こっちで大学院行って資格なりなんなり取った方が自分の為になると思って、同時通訳の大学院を受けてみよう」と考えている。

12. 韓国語ができることの意味

「言葉っていうのは、それを知ってることでその国の文化とか情緒とかいうのもいっしょについてくるわけでしょう。だから今なんか良かったと思うのは、日本語にしかない表現とか韓国語にしかない表現っていうのがあるでしょう。形容詞なんかでも韓国語で辛いもの表現する時、色んな形容詞があったりとか。そういうのを自分が情緒的にわかるっていうので、すごい幅が広がるような気がするし、やっぱりアイデンティティーっていうか言葉を話せなきゃ始まらないっていうのがあると思うんですね」。

「最近、絶対的に韓国語を使ってる量の方が多いですよ。普通の会話とかしてる分には韓国語で色んなもの表現してるから、ある時は韓国語の方が楽だったりします。単語量とか絶対的に韓国語の方が少ないですし、読み書きなんかは日本語の方が楽なんですね。ただ会話の場合だと韓国語の会話に今慣れちゃってるっていうのがあって、どうだろう日本語力を100とした場合、韓国語は85ぐらいかな」。

「一番嬉しかったのが、例えばボストンの〔父方の〕親戚とかは英語で私たちは日本語で共通の言葉がなかったわけでしょう。むこう〔アメリカのいところ〕も韓国語習い始めて私たち〔きょ

うだい〕も韓国語習って、やっと同じ韓国語で意志疎通ができるようになって。共通語が自分の母国語だっていうのは、すごくいいことでしょう。例えば英語でもしお互い話し合っても、ちょっと空々しいと思うし。あと在美僑胞（チェミキョッポ）の友達とかが増えたりした時に、あちこちに住んでる韓国系の人たちと韓国語で色々喋ったりすることができるっていうのが嬉しかったんですね。日本人とか在日僑胞（チェイルキョッポ）だけじゃなくて、色んな国に住んでる韓国系の人たちと同じ母国語で1つになれるっていうか」。

13. 現在のエスニック・アイデンティティー

「今はもう韓国人だと思います。私の場合なんか韓国に来て、やっと日本に帰っても自分が韓国人なんだっていうのを逆に意識するようになったんですよ。それはこっちに来てね、自分が韓国語を話せるようになったりとか、こっちのことを色々見聞きして韓国の文化とかがある程度わかった上でのことであって、漠然と親から言われるだけじゃ、なんかピンと来ないことの方が全然多いでしょう」。

●「何を考えるにしても在日韓国人」：「在日韓国人」型

韓国名、朴哲喜（パクチョリ）、通名、高山哲喜（たかやまてつき）。中部地方の出身で、両親は共に「在日」2世、よって本人は3世。23歳。韓国に来るまでは通名を使っていた。

家庭環境については「僕の家では韓国人らしい生活をしてませんからね。食べるもんとかもそうですけど。キムチも作ってませんから。ほんとにもう日本人みたいに暮らしてますけど」と語る。

朴哲喜は2人きょうだいの長男で、妹は専門学校を卒業後、日本で働いている。

1. 留学以前のエスニック・アイデンティティー

最初に意識したのは小学生の時で「祭祠(チュエサ)とか、そういうのもありますから、ここ〔日本〕の子たちとは違うな」と思ったものの、韓国に留学するまで自分のことを「全く日本人と変わらない。籍が韓国なだけだ」と思っていた。

ただ、高校卒業を前にして自分が「在日」であることをクラスメートに「言っといた方がいいかなとか思って、卒業式の時に教室で『今回、韓国の方に留学することになって、それはなぜかと言うと韓国人だから。うちのおじいさん、おばあさんが実は韓国から渡ってきて僕のお父さん、お母さんも日本で生まれたんだけど籍は韓国で、僕もだから在日韓国人3世ってことで、一応母国、とりあえず韓国を見に行きたい。で、そこで韓国人がどういう生活をしているのかとか、どんな考え方をしているのかというのを学びに行きたいっていうことで。だからソウルの方に留学して僕も頑張るから、みんな頑張ってください』って感じで、『大学入って、みんな関西とか関東とか色々な地方に行くから多分、在日韓国人とか僕みたいに通名じゃなくて本名、名のってる子もたくさんいると思うから、そういう時には僕にしてくれたように、ほんとの友達として接してやってくれ』っていう感じで。で、あと『僕みたい在日韓国人が高校の時おんなじクラスの中に1人いたっていうことを忘れないでくれ』って感じで言って。僕も泣いたんです、その時に。で、女の子とか親しい男の子とか泣いちゃって、先生も泣いちゃって。まあ、すごい良く理解してくれたみたいで、今でも高校のそのへんの奴らとは日本帰ると一緒にどっか飲みに行ったりしてますけど」。

2. 日本での被差別体験

日本での被差別体験としては「韓国籍」を理由に私立高校の受験を拒否されたことを挙げているが「ま、いや。公立〔高校〕に受かれば

いいんだから」と思ったぐらいでそんなに深刻に考えなかったと言う。

「在日」に対する差別一般については、「やっぱ、あると思いますよ。国籍が韓国ですからね。でもそれを差別って僕は考えたくないんですよ。日本にいる外国人として当然のことだと思って受け止めるべきだと僕は思いますけど。だから在日韓国人が日本に帰化して、それでも差別受けたとしたら、それがほんとの差別だと思えますけど」と語る。

3. 留学のきっかけ

「日本と韓国の間で貿易をやってる」親戚の叔父に「高校2年生くらいから」韓国に留学することを勧められたのが直接のきっかけではあるが、以前から「どっか留学とかもしたかったし韓国だったら親も反対しないだろうってことで」韓国の大学の見学を兼ねて、高校2年生から3年生になる春休みに韓国に旅行に行く。「自分の住んでる所から見たらソウルは都会ですからね」「ここだったら住んでもいいな」「こんなかたちで留学できるとは思わなかったからラッキーだ」と思い、韓国へ留学することをこの時点で「ほぼ決め」たので日本の大学は受験しなかった。

4. 留学前の韓国語力

高校3年生の時、韓国に留学する準備として民団の韓国語教室に通い、簡単な読み書きと単語の学習をする。

5. 韓国での被差別体験

『なんで韓国人なのに韓国語ができないんだ』と昔はよく言われましたよ。『当時の日本の状態から見て1世のおじいさん、おばあさんが韓国語で生活していくっていうのは大変だった。それでうちのアボジとかオモニも日本語しか喋れない』とか言っても、わかってくれな

い人はわかってくれないんですよ」。それから「在日韓国人と道とか歩いてると、どうしても日本語で喋っちゃいますでしょう。そういうのをパッ聞いてて酔っぱらいとかから、『チョッパリ』とか言われる時もあります。でも最近はいぶなくなりましたけどね。やっぱ韓国語が少しできるかできないかで全然違ってきますから」と語る。

6. 日本人観

「高校の先生で差別問題とか授業で時々話してくれたんですよ。だからすごい共感を得て。作文の時に『見えない壁』とかいう題で僕は作文書いて先生とも少し喋ったことあるんですけど。先生の中にも無知な人は言葉1つとっても在日韓国人とか韓国人には、すごいショックを与えるような言葉を知らなく使ってる人が多いんですよ。だから、そういう先生に比べたら、すごい先生でしたけど」と思う一方で、「日本でも例えば合コンとかして自己紹介とかしますでしょう。『今ソウルに留学して』って簡単に言うとか『へー、韓国。すごーい!』とか言って。(笑い)『韓国ってやっぱりモンゴル語喋るの?』とか言われて。(笑い) そんなのが多いですよ。『韓国語ちゅうのが、あるだけだ』ちゅうって。(笑い) まあ、そういう子らには、もう軽くしか言いませんけどね。そこで、あんまし重い話ししても、あれだから」とも言う。

日本人の友人については「韓国っっちゃ、こういう国なんだよっていうのを一生懸命、教えたい時とかあるんですけど、10パーセントか20パーセントわかってくればいいかなって感じの時もありますから。そういう時にすごい距離感が、特にこっち来てから距離感ができたなちゅうのはありますよね、考え方とか。それにあの子らは卒業したらすぐ就職して安定した生活を望んでますよね。あんまし夢がないと思うんです。僕らの場合違いますから。僕の場合だっ

たら、とりあえず色んな所、見てみたいとかあるんですけど」。

7. 韓国人観

「『どんな状態においても韓国人だったら韓国語を伝承していかなくちゃいけない』とそういう風に言う子もいますし、『あ、そうだから、しょうがないね』って言ってくれる子もいますし。今は理解してくれないなら、もうしょうがないって感じで受け流すようにしてますけど」。

「友達は僑胞(キョッポ)よりも韓国人の友達が多いですね。性格的には僕は、こっちの子は結構合いますけどね。僕の欠点ちゅうのもズバズバ言ってくれるから。その時はちょっとカッとしますが後で考えてみたら自分でも『そういう面では、なんか成長したな』ちゅうのはありますね」。

「反日感情とか、そんなこと言ってるようじゃ、まだまだ韓国も発展しないって思ってるんですけど。そういう事実は認めても、そういうのを教訓として前に進んで行かなくちゃいけませんから。いつまでも昔は日本が、どうたらこうたらしたとか、そんな風には考えて欲しくないですね」。

8. 「在日」観・「在米」観

「在日韓国人と在米韓国人の違いこっちから言葉ができるかできないですよ。言葉ができるから在美僑胞(チェミキョッポ)の方は、すぐにこっちの子とも親しくなれるし。在日韓国人は言葉ができないから、それで1つ壁、作っちゃうと。あとは歴史とか見ても、日本から来たって言うよりもアメリカから来たっての方が親しみ易いですからね」。

「結構こっち〔韓国〕の人から見たら在日韓国人は中途半端な、韓国語もろくにできないくせに、ちゅうのありますでしょう。在日韓国人でも韓国語ができて、こっちで大学卒業して、

いいと就職して、そこまでしたら多分認められると思うんだけど」。

9. 法的地位について

指紋押捺については「在日韓国人っちっても籍は韓国ですから外国人として当然なことだと思って」、指紋押捺の反対の運動についても「別に共鳴したとかいうのは、ありませんでした。ただ、やってるなって感じてしたね」。

日本での参政権は「あった方がいいと思いますけど、それも在日韓国人としては、まあなくて当然」と考える。しかし韓国での参政権は「やっぱり、欲しいと思いますね。特に韓国の方が欲しいですね。日本で住んでても籍は韓国でしょ。そっち〔韓国での参政権がないこと〕の方が僕は差別だと思えますけどね」。

10. 結婚観

「親としては在日韓国人の女の子と結婚してくれるのが1番理想みたいで、その次に日本人、その次にこっち〔韓国〕の人ですね。言葉〔韓国語〕ができませんでしょう、うちの両親が。それで日本の人だったら考え方もわかるし。でも僕は基本的に国籍とかそういうのは全然関係ありませんから。親の反対とかあったとしても僕は最終的には自分が本当にしたいようにやりたいと思っていますから」。

「こっちの子と結婚するんだったら、こっちで暮らすつもりですけど、『日本には連れて行きたくない』っちゅうのが、ありますから。日本語で苦労とかしますし、また僑胞（キョッポ）が出てきますでしょ、子供として。韓国人で生まれるんだたら日本で生まれるよりも韓国で生まれた方がいいんじゃないかっていうのはあるんですけど。韓国人だたら韓国で生まれて韓国人として育った方が、在日韓国人の問題とか少なくなりますでしょう。だからこっちで暮らさした方がいいかなーっちゅうのもあるし。

だから、あとは親の問題ですよ、僕が長男だし」。

11. 留学後の進路

「こっち来てから、夢が大きくなったっちゃうんですかね。僕らにしてみれば一応祖国なんですけど1つの外国みたいなもんですからね、来た時は。そこで5年間やってきたっていう自信がありますから『これだったら、どこの国行ってもやっていけるんじゃないか』っていう自信もできたし。特に思うのは英語圏行って英語を喋ってる人の考え方とかいうのを理解したいというのは出てきましたけど」。しかし「うちの親父は『大学卒業したら自分とこ来て働いて欲しい』っていうのがあるんですけど『僕はそんな、やりたくない』ってこと言って。親父は『大学卒業してどっか行くんだたら、もう援助はしない』って感じで。僕は『でも、それで自由が得られるんだたら、そっちの方がいい』って言ってますし」。

韓国とのつながりは「続けたと思いますね。大学の友達もたくさんいますしね。連絡とかとっていきたくと思いますから。特に僕が一番楽しい時期をここで暮らしてたっちゃうのがありますから」。

「住み易さで言ったら日本ですよ。多分、僕が日本で生まれ育ったからだと思います」。でも「日本で暮らすんだたら日本人的な生活をしなくちゃいけないっていう風になっていくと思いますけど。日本の中で韓国人だって言うてもしょうがないと思いますからね。心の中で『自分は韓国人だ』って思っていればいいことで他人に強要したりすることじゃないと思いますから」。

12. 韓国語ができることの意味

「すごい大きいですね。やっぱり韓国人としての自覚っちゃうんですか、芽生えました。そ

れに韓国語ができると韓国人として認めてくれますから」。

13. 現在のエスニック・アイデンティティー

「何を考えるにしても、やっぱり『在日韓国人』っていう基盤がありますから。5年間こっちいて韓国語もちょっとできて韓国の友達もたくさんいて。そういう面から韓国のことも少しづつ理解してきてますし。韓国人の考え方に少しなってきたちゅうのがありますし」。そこで私が「一番たくさん韓国人の考え方になったとしたら何パーセントぐらい韓国人が占めると思う？」と尋ねると「いっても半分から6割だと思いますけどね。〔日本人的なものっていうのは〕抜く必要はないと思うんです。そういうことを利用して僕らは生きていかなきゃいけないと思ってますから。在日韓国人として、そういうのを利用して生きてくしか、しょうがありませんからね。だからハンディーだけじゃなくて逆にそれを利用して日本人の考え方も理解できるし韓国人も理解もできると。で、日本語喋れて韓国語喋れて。そういう立場を利用していかなきゃいけないと思ってますけど。だから、やっぱり在日韓国人になるんでしょうね。無理に100パーセント韓国人の考え方になり切ろうというのはありませんから。日本のことも理解して韓国のことも理解してるって。ま、格好良く言えば日本と韓国のパイブ役になるとか、そんなあれだと思いますけどね」。

●「精神的には地球人」：コスモポリタン型

韓国名、金由美(キムユミ)、通名、金田由美(かねだゆみ)。関西地方の出身で「在日」3世。23歳。

地元の日本の中学校を卒業後、インターナショナルスクールに入ったのを契機に韓国名を使う。大学は、きょうだいが「2人共アメリカに〔留学に〕行ったので私もアメリカに行くつ

もりにしていた」が、末っ子ということもあって「親に『駄目』と反対されて仕方なく」日本の大学の「比較文化学部」に入った。そこは学生に「留学生や帰国子女、インターナショナルスクール出身者」が多かったと言う。第一希望のマスコミ関係に就職が内定し大学を卒業後、就職するまでの半年を利用して韓国に語学留学した。

韓国には高校生の時、初めて来て以来、今までに「5、6回は来てる」し、アメリカにも留学中の兄や姉を訪ねて何度か旅行に行っている。

金由美は3人きょうだいの末っ子で、兄はアメリカで大学を卒業し今は日本で父の事業の一部を継ぐかたちで自営業を営んでいる。姉はアメリカの高校を卒業した後、韓国に語学留学し、しばらく韓国系の機関で働いた後、現在はアメリカに語学留学中とのことだった。

1. 留学以前のエスニック・アイデンティティー

子供の頃から親や祖父母が話す朝鮮語を耳にしていた上、親戚とのつき合いも多い「家庭の中での教育で、ずっとちっちゃい時から」韓国人だということは知っていた。「だから両手で何かするとか、色々そういうのんしつけられるでしょ。家ん中だけだったら、それが当たり前だけど外に出て初めて『私は人と違う』っていうのがわかった時に、やっぱ家庭での両親からのものだと思う」。

金田由美が高校生だった冬休み、アメリカに留学中の姉と兄と「アメリカで3人でクリスマス過ごそうとか言って。お兄ちゃんの友達の家」に3人ともお世話になってて。こん時すごい思ったけど、みんな全然違う。ブロンドの人もいればブルーの人もいればブラウンの人もいれば、私達は黄色人種だし。アメリカっていう国自体が何でも吸収しちゃうみたいなのがあるでしょう。そういう所にいると日本に帰って来た

時に、こんなこと気にしてたのかみたいなんとか逆にわかったり。私はそういうのあんまし気にしたことないけど、韓国人として生まれてすごく嫌なこととかあったとすのでしょ。そしたら在日の子でアメリカに留学してる子とかいるんだけど帰って来たら『こんなことぐらいで嫌やなーと思ってたんかなー』とか『なんで通名使ってたんかな』とかっていうのはすごくあるでしょ。だから1回パッと引いてみると、わかるみたいな。私もそうやなーと思って」。

「逆に就職活動の時に自分がすごく『韓国人なんだなー』っていうことを改めて認識したみたいな。(笑い) 本名だったから『日韓関係についてはどういう風に思ってますか』とか『そういう番組は作ってみたいんですか』っていうのは絶対聞かれるから、『あ、またきた』みたいな。(笑い) その時初めて自分でどう思ってるのかなっていうのを言葉に凝縮しないといけないから結構考えて。その前までは『韓国人だけど、もっとそれに固執しないで』っていう風に進んでたから。それが最後に就職活動の時に『あ、やっぱり自分は韓国人』(笑い)」。

2. 日本での被差別体験

「全く無縁で今まで来たって感じ。よく話はまわりの子からとか聞くけど私自身は全然なくて。あったとしても『ま、いっかな』って思う性格だから、あったのかもしれないけど、あんまり感じてなかったみたいな」と語る。

ただ身内の被差別体験については「お兄ちゃんは野球が好きで〇〇高校に行ってて野球してはって。そんな時に多分ね、1回〔家族全員で〕帰化するとか、せーへんとかそういう話になったから。野球でこれからずっとやっていくのであれば、みたいなことで父親は考えたんだと思うんだけど、その話はおじゃんになってってうか消えたから。お兄ちゃんがアメリカ行くことになって、もう学校も辞めることになった」

と言う。他にも「お父さんも進学の際に〔在日韓国人だから学校に〕入れてもらえないみたいなのがあった」と語る。

3. 留学のきっかけ

後の項でふれる「韓国での被差別体験」に「よっぽど腹が立ったらしく〔その記憶が〕あんまり薄らがなく。(笑い) それに大学入って韓国語勉強しだしたでしょ。それと大学の韓国語の先生がすごいいい人でその人の影響もあって『色々もっと知りたいなー』とか思って。その先生に韓国に行こうって思ったのを言ったら、すごく情報を提供してくれたから。もっともっと『やっぱり行こう』みたいになって」。しかし「大学に最初に入學する時に、3年半で卒業して1年間は韓国に来ようと思っていたのが、就職活動が予想以上に大変」だった為、予定を半年に縮めて語学留学することにした。

4. 留学前の韓国語力

大学で第2外国語として受講したものの「読み書き」中心だったため、韓国の大学付属の語学教育機関に入學する際、「面接の時に全然喋れなくて初級の1班」という最も基礎のクラスに振り分けられたと言う。

5. 韓国での被差別体験

初めて韓国に「来た時に税関の人が『どうして〔韓国語が〕喋れないんだ』とか言って。そんな時、韓国語でバーと言われてわかれへんし『英語で言って』って言ったら、『なんでや』とか言われて、『だって日本では〔在日韓国人は韓国語を〕喋れへんから』って言ったら、『そんなんは恥や』とか言われて。すごい腹立って『絶対に喋れるようになってやる!』とか思って(笑い)」。

6. 日本人観

「日本人の中には、〔韓国人の〕先祖崇拜みたいなのは嫌とかって言うてる人っているし、在日が完璧に溶け込むのは無理かもしれないけど。一番ベストやなと思うのは通名じゃなくて本名でいって、お互いにそれが当たり前。当たり前すぎて難しいと思うから、そっちに向かって行けばすごいいいなと思うんだけど。例えば大阪とかだと在日の人数ってすごいでしょう。もう数の上では事実だから。それを受け入れる態勢って日本側になと思う」反面、「オリンピック以降韓国のこととか紹介されたりして、なんとなく理解も深まってきて。前は理解しようにも資料というか、なかったし。興味持ってる日本人の友達も多くて最近時代の流れかなみたいな、すごい感じるから。私たちの年代で日本人の子とかと〔差別について〕喋ってたりとかすると『それは絶対よくないね』とか言うてるでしょ。そうすると私達が世の中を動かすぐらいの時になったら、それは自然になくなるわけでしょう。今どうにかしようって思ったらやっぱり難しいけど声ってあるでしょう、一般市民の。そういう意識を持つのと持たないのとだったらやっぱり違うと思うし。段々意識が高まってきてと思うんよね」。

7. 韓国人観

「こっちで生まれて育った人と一緒にいると、あんまり慣れ慣れしなかったりストレートだったりして精神的に負担が掛かったりするでしょ。毎日1日1回『あのアジョシってこうよね』とか『韓国はこういう国よ!』とか〔在日僑胞(チェイルキョッポ)に〕愚痴を言ってしまうっていうか。(笑い)『日本とは違うよね』みたいな。でもそれは多分、日本の友達とかアメリカの友達とかから、そういう風に言われたら腹立つかもしれないけど、おんなじ在日僑胞(チェイルキョッポ)の間だから言えるみたいな」。

8. 「在日」観・「在米」観

「在日」は「在美僑胞(チェミキョッポ)の人とかと比べたら国籍が貰えないっていうので感情的にも事務的にもややこしくなってる。でも全く在美僑胞(チェミキョッポ)みたいにもうアメリカ人としてっていうのは日本では多分無理だと思うし。韓国人の側も嫌だと思ってる人もいるかもしれないかなって」。

「うちの父親が結構虐げられて今まできてるから『子供たちにはそんなをさしたくない』とか。それって逆にあんまり守りすぎて今度はそれが過剰防衛になってるみたいな風にごく感じてたから。『なんかすごい難かしいな』とかって一時すごい考えて思い悩んだりしたことがあったけど、今はそういう時期があったから『もうそういうの考えんのは終わった』みたいな。(笑い) 親は親のジェネレーションがあるから、そういう考え方は仕方がないかなーと思うけど自分は地球人やと思ってるから、(笑い) そういうの全然関係なくてっていう感じで。日本人側もそうだけど、こっち側〔在日側〕も話のテーブルに着くじゃないけど。聞く耳持ってなかったりするでしょう、おじいちゃんとかおばあちゃんでもそうだけど。うちの父親とかも多分そうだと思う、ジェネレーション的に。自分たちが若い時に苦労してるでしょ。だから『日本人はこうや』っていうのを頭からラベルをベンツ貼ってるみたいなところがあるから。〔日本人に〕『絶対何を言っても無駄やから最初から言わない』みたいな。『話してもいっしょ』みたいなものを感じるから。『そんなことないよ。わかってる人もいるよ』って言っても、『時間の無駄!』みたいなんがあるから」。

「在日」の中にも「不満だけ言って、あんまり理解を深めてない人っていうのが多いと思うから。就職がどうのこうのんとか、諦めてる人がすごく多いと思うの。私の1こ下の従弟とかでも『就職活動しても、どうせ』とかいう感じ

で言ってるから、そういうのじゃなくて、もっと突き詰めてじゃないけど、もうちょっと理解をしようっていう風な姿勢があってもいいんじゃないかなって思うから。自分の国〔韓国〕に対してとか、自分の置かれている立場に対してとか。『どうしてこうなったのか』とか。そういうの全然わかんないでしょ。1つのことに興味が湧くと色んなことに目が向けられるでしょ。ちょっと視点を変えてみたらいいんじゃないかなって思う」。

「〔在日の〕すごい好きな部分っていうのが色々あるから。例えば親戚とか先祖とか大事にするでしょ。私はそういうの好きって言うか、そういうのから得るものってすごいいっぱいあるから忘れて欲しくないと思うけど。だからってなんでもかんでも上の人の言うこと聞かなくなかんみたいところあるでしょ。そういうのはすごい嫌いやから、そういうのはちょっと除外してって感じで」。

韓国に留学している「在日」については「1人1人は、すごく境遇が似てるだけあって全然違う話題でも結構価値観似てたりするから合う子はすごく合うの。でも合わない人はほんとに全然話題が合わない。こっち来て浅いけど、ちゃんと目的持ってる人と持っていない人っていうのは日本にいる時よりもよくわかるから。『こっちにいる在日僑胞（チェイルキョッポ）の子の中にはあんまり入りたくないな』って日に日に自分で感じてるっていうか。（笑い）〔在日僑胞（チェイルキョッポ）の中で〕『こっちで彼氏見つければ』とか、（笑い）それは一番最初に言われて。『親が喜ぶかもよ』とか。それに、みんな集団じゃないと駄目なんだな—と思うし」。

9. 法的地位について

参政権については「国勢レベルでいくと日本を動かすわけだから、どうなんだろうなって。地方レベルでいくと自分たちの街を住み易くす

るためには、例えば〔在日韓国人が〕多く集まっている所とかっていうのは、それを反映させる人っていうのが必要だと思う」と語る。国籍については「選択できればいいね、やっぱり。アメリカみたいに」。しかし自分自身は「韓国籍のまま。だって今から選べるわけでしょ。今の私から。生まれてからすぐとかじゃなくて。例えば二重国籍の場合、日本で生まれてこれかも日本に住むっていう場合は、ほとんどみんな日本国籍を選ぶわけでしょ。どっちか選べるっていう場合に一番便利なのを選んでしまうと思うの。もしおんなじような立場だったら私は日本国籍を選んでいたと思う。『これからずっと日本なんだし』って思ってたかもしれないけど、『今から、じゃあ選んでもいいよ』って言われても、私は日本人と結婚しても韓国籍のままですって思ってるから。そこまで固まってしまってるから。同化しようって気はあんまりないから。自分の違うところをもうちょっと伸ばしていきたいなっていう感じの方向に今は進んでるから。日本国籍には今からはなれない」。

10. 結婚観

「高校ん時はアメリカンスクールで、本名で行ってるから結構向こうも〔韓国人だって〕わかって接してるでしょう。私がつき合ってた子は日本人だけど親同士とか良く知ってるし、いつも「おうちにおいで」とか言って、ご飯よばれたりとかしてたけど、なんか向こうがそういう風にしてくれると、かえてこっちが引いてしまうっていうのかな。だからいつも思うのは『差別とかされたくない』って思うけど、例えば結婚とかつき合うとかいう風になると両親とかのことを考えると引いてしまうっていうのは、かえてこっちの方が相手のことを区別してるっていうか差別してるっていう風にしていい感じだから、高校の4年間っていうのは結構そういうの考えるのがうざったいっていうか、

面倒くさいから。せやし色々吸収する時でしょう。だから頭を悩ませるのは嫌だからと思って、そういうのから一切いって感じで。(笑い) 高校ぐらいまでは『絶対韓国人じゃない』とか思ったから、例えば自分が日本人とかハーフ・ハーフの人とかアメリカ人とかを好きになりそうになるなーと思ったら『あー、もう、止めとこ!』(笑い) みたいな。自分でストップをかけてって感じだったけど。今はそうでもなくて。今つき合ってる人は日本人だけど全然気にしないし、お互いに。向こうの親とかも「金さん」って言ったら名前前でわかるでしょう。『私韓国のやつ勉強しに行ってくる』とか言っても『じゃ、頑張ってきてね』って感じだし。ただ両親に日本人と結婚したいと言ったら「反対すると思う。殺されるとか思う(笑い)」と言う。

11. 留学後の進路

「自分でも韓国に来て色々勉強して、日本から来てる〔在日の〕子とかとも色々話したりしたら、自分が社会人として仕事とかをしてね、できることがあったら、いっぱいやりたいなーとかいう感じで、最近しみじみ思ってるっていう段階だけど」。

12. 韓国語ができることの意味

まだ「挨拶程度」しかできないので「よくわからない」。

13. 現在のエスニック・アイデンティティー

「地球人!」

〔なに人って聞かれたら、なんて答える?〕との問いに対して、「韓国人だけど精神的には地球人」で「地球人の中に在日韓国人がある」ような形と言う。

〔祖国は?〕との問いにも「地球(笑い)」と答えた。

●「韓国と日本が半分半分」:「日韓ダブル」型

韓国名、李京姫(イキョンヒ)、日本名、浜京姫(はまきょうみ)。父は日本人、母は「在日」2世で、結婚した後も韓国籍のまま。本人は日本国籍で22歳。

一人っ子だった父が大学院を中退し両親の反対を押し切って「勘当みたいな感じで」母と結婚。浜京姫(はまきょうみ)は、結婚に反対していた父方の「おじいさんに会ったのはゼロ。おばあちゃんには2回」だけで、今は祖父母とも亡くなっている。母方の方も当初は日本人との結婚に反対していたが、母は子供は3人とも実家で出産し父も祭祠(チェサ)など、母方の親戚つき合いに参加している。そんな父を京姫は「父に理解があったから」自分も韓国にも留学できたと語る。

浜京姫は3人きょうだいのまん中で、きょうだいは3人とも日本国籍。兄は高校を卒業後、会社勤めを経て今は自営業を営んでいる。日本人の妻との間に子供が1人。弟は高校卒業後、アメリカに語学留学中。

「教育院」時代は「日本国籍を持つてるのは1人でしたけど、みんなもう私のことを韓国人って、さらっと流してたみたい」と語る。

1. 留学以前のエスニック・アイデンティティー

「日本でも韓国式のご飯を食べてたな」と気がついたのは、韓国に留学に来てからで、それまでは「韓国料理ともわからずに食べてた」と言う。

「5歳と小学校2年生の時」、家族旅行で韓国に来て入国する際、母だけが別の所に並びに行き「自分達きょうだいは『お父さんについて行きなさい』と言われて。普通だったら、お母さんがつれて行くじゃないですか。それに自分たちとは違う色のパスポートを母が持ってて『お母さんは日本人じゃないんだ』と漠然と思うが「お母さんは韓国人」と認識をするのは、

もう少し後になる。

「差別〔があるの〕も一応知ってたから。母が韓国人だっていうのもあえて言わなかったし言う必要もなかったし。日本にいたら母の国籍まで聞かれなかったの。半分半分っていうあれはありましたけど、あえて言う場がなかったもので、日本人として」。

2. 日本での被差別体験

「男の子に『朝鮮人』で一度ちらって言われた時に、すごいショックが大きかったですね。韓国人の母を持てますけど自分は日本人だと思ってましたから、これが差別なんだと。小学校の3年くらいですかね」。しかしその後「引越しをしたもので、もうそれから全く」こういったこともなく、「母が韓国人であっても、〔それは〕別世界みたいな感じ」あるいは「母は韓国人だと別席においでるみたいな」感じで大きな葛藤はなかったと言う。

3. 留学のきっかけ

「〔日本で〕大学落ちたっていうことですかね。1年間浪人するのも自信がなかったし。韓国じゃなくても良かったと思うんですよ。アメリカなりなんなり、どっかに出てみたいと思ったのが一番のきっかけですかね。〔大学を〕受ける前に母方の叔母に『私だったら韓国語覚えに行く。韓国語を覚えといた方が何かと得だ』ということを知ってたもんで、外国に出れて、それもいいかなと心が浮わついていたんでしょね」。受験勉強も特にせず日本の「大学に落ちてから叔母に影響されて韓国に来るのが決まったみたいな」。

4. 留学前の韓国語力

韓国語は全くできなかった。

「母の実家で私たち子供を産んで暦とか色んなのを見て〔3人きょうだい全部〕韓国式の名

前がついたと思うんです。こっちに来てやっと日本語の名前と韓国語の名前を足したみたいな名前をつけたんだっていうのが、はっきりわかって。兄とか弟とかはまだぴんとこないんじゃないですかね。兄は韓国語での名前の発音の仕方も知っていましたが、弟は知りませんでした」。

5. 韓国での被差別体験

「タクシーに乗った時に『なんで言葉が喋れないんだ』とか、飲んでた時とかは『チョッパリ』とか言われたことがありますね。あえて日本籍を通した方が、こっちではよく見られるみたいな。だから2通りに分かれるんですよ。日本人を大嫌いな人か、日本人なのに韓国語をおぼえにきて嬉しいという2通りがある。ほいで在日僑胞（チェイルキョッポ）は、その間に挟まれて、どっちも通らずに『チョッパリ』と言われてるような気がしますね」。

6. 日本人観

日本人の父のことを「第1に母と結婚したことも国際的かなと。第2は私をこっちに送ったのも理解があって。『日本人だったら日本語だけでいいじゃないか』っていうのが日本的な考えかなと思ってますけど」。

「日本人一般の人たちに何か言いたいことは？」との問いに「日本をもっと心から国際的にして欲しい」と答えた。

「東京だからそうなのかもしれませんが息苦しくなるっていう。韓国っていうのは街がざわざわして活気が溢れてるっていうか、うるさい街じゃないですか。ほいで東京っていうのは静かに、歩くときでも話さず、ちょっと大きい声で喋るとみんながぱっと振り向くような視線を感じながら生活してるっていうのがひしひしとわかってきて。『あ、なんか〔息〕苦しいかな』っていうのを感じる時がたまにあります」。

7. 韓国人観

「在日」は「韓国人の血を持ってても日本で育った時には韓国語を知らないことを韓国人は知らないから」「在日」に対する差別があると考える一方で、「1対1で話す時に日本人が嫌いだから、どうのこうのって言う人はいません」と言う。

〔韓国人一般の人たちに何か言いたいことは？〕との問いに「在日僑胞の立場をもっと知って欲しい。私は在日僑胞じゃないですけど、こっちに住んで思ったことはそうですね」。

8. 「在日」観・「在米」観

「在日僑胞（チェイルキョッポ）は日本にもつかず韓国にもつかず、認められず」。

「日帝時代のことを考えて（アメリカより）日本の方が悪くは見られてると思いますけどね」。

自分と「在日」との関係は、韓国では「環境が一緒なもんで考え方も一緒で。私が日本籍であろうと在日僑胞も日本で育て、大学も一緒で、過程が一緒だから、生活していく困難や苦痛や色んな悩みもだいたい似たような感じのことを思ってるから話し易くて」。

「韓国では民団の色んな行事に参加してきたもんで、『母国修学生の会』とか、『青年会』が〔日本から韓国に〕来て在日僑胞を集めたりして2泊3日の研修みたいところで討論をしたり。そういうところに参加して就職情報を聞いてみると『あ、〔日本で〕在日僑胞に対してすごい差別があるな』と、ここで初めてわかりました」。

〔「在日」に何か言いたいことは？〕との問いに「苦しいけども自分としての生き方をして欲しい」。

9. 法的地位について

「在日」の参政権については「あった方がいい

と思う」。

10. 結婚観

相手は「〔なに人かは〕問わないです。〔こちらの韓国人とも〕言葉がね、100%通じれば。在日僑胞（チェイルキョッポ）のオッパが韓国人をもらってるんですけど言葉のうっぶんが溜るっていうんですか。オッパたちも日本語で言った方が楽だという。でも相手方は韓国語で言った方が楽だという。そういうことで『まどろっこしい』っていうのがあるんじゃないですかね。成長段階での環境が違うもので考え方が根本的に違うみたいな感じで。それを聞いて『やっぱり自分が育った日本の国の日本人か、在日僑胞（チェイルキョッポ）か私みたいな半々の人の3通りの中から決めたいな。もし日本人と結婚すれば私は自分でダブルの生き方をしたいと思いますけどね。在日僑胞と結婚するならば自分も感化されて在日僑胞になるかもしれないし〕。ただ在日僑胞と結婚した場合「子供をもし日本で産んで育てるとしたら差別とか見ても日本国籍を与えて上げたいと思うので日本国籍を残しておきたい」と思っている。子供には「私がハーフであって韓国の血も混ざってるよと。それで自分で日本人になるなり韓国の血を強く感じるなり、それは子供の自由にして上げたいなと。他にも自分が韓国に来て思ったことも伝えたいな」。

11. 留学後の進路

「まだはっきりとは決まってないんですけど、韓国語を生かして日本の企業に食い込めればいいなと」。

12. 韓国語ができることの意味

「韓国人を知ったって言えばいいんですか。全く知らなかった子が韓国を知ったって言うしかないですね」。

韓国語力については日本語100だとしたら「60ぐらい。5年間住んでると簡単な言葉では全部言い表せるんですけど、中学生ぐらいになったかなって言う言葉遣いしかできないから」と言う。

13. 現在のエスニック・アイデンティティー

「葛藤してるみたい。韓国にいる時には韓国人になりきるつもりで。だから韓国と日本が半分半分みたい。どっちもとれないみたい」。

〔祖国は?〕〔自国は?〕との問いに、「今はありません。韓国に来る前なら絶対日本だと思ってましたけど。韓国にいる時は韓国人のがいいと思ってますね。日本が嫌いなんですよ。1年目は韓国の嫌なところしか見えずに過ごしましたが3年過ぎてからかな、言葉が通じるようになってからは『私は韓国の方が向いてるのかな』とも思う反面、「自分が喋って一番喋りやすい言葉が民族だ」という大学の教授の言葉に『日本語が私は楽なんだな』と思う時には、『やっぱり日本人なんだな』と思う時もあります」。

V. まとめにかえて

4人の事例からもわかるように、韓国に留学した「在日」のエスニック・アイデンティティーに影響を与えるものとして、まず「言語」と「被差別体験」を挙げることができる。「在日」のエスニック・アイデンティティーの形成を考えると、日本では「被差別体験」により、「日本人ではないもの」というところから自己のエスニック・アイデンティティーの模索が始まるが、韓国では「朝鮮語能力」が差別されるかされないかの踏み絵の役割を果たしている。日本では「韓国人」あるいは「朝鮮人」として自らのエスニック・アイデンティティーを確立した在日

2世、3世の場合でさえ「母国」に行った途端、十分な「韓国語能力」の欠如ゆえに「母国」から「韓国人ではない」者として弾き返されてしまい、エスニック・アイデンティティーに揺さぶりがかかるということは充分考えられる。

「韓国語」は日本で暮らしているぶんには、「在日韓国人としてのエスニック・アイデンティティーの獲得に不可欠」というほどの力は持たない。しかし韓国内では、「在日韓国人」の「韓国人」の部分を実証する最も強力な証拠となる。つまりハワード・ベッカーなどのラベリング論などで言われている「ラベル」張りが、在日に対して日韓両国で広く行われていることは今回の「語り」にもよく表れている。「韓国語」能力が欠落していると「自分は韓国人だ」と思っても、韓国人として受け入れられない。こうした経験を、日本での被差別経験も持つあるインフォーマントは次のように語った。彼女が1世の父の旅行について韓国に行った時のことだ。

「釜山でこっちの父の友人に『あなたは韓国人じゃないね。言葉〔韓国語〕がわからないから、あなたは日本人だね』って言われた時に、『違う』ってその時すごく思った。おんなじだと思ってたみたい。この韓国での経験が契機になって、彼女は日本に帰ってきてから留学準備をはじめ会社を辞め、4カ月後には韓国に留学していた。

「私はこっち〔韓国〕に来たら全面的にこっちに所属できるんだと思ったんですね。こっちは全面的に大手を広げて受け入れてくれるものだと思ってたんだけど、全然そうじゃないっていうのがよくわかった。私はこの私のままで受け入れられなきゃいけないんだけど、それっていうのはもうそこから違う」。

つまり韓国語もできない「在日韓国人」は韓国においても「所属」することを拒まれてしまう。

「今はもうおんなじであろうということを放棄しちゃったのかもしれない。(笑い) だから自分が韓国人だみたいなことを韓国で求めることは今はもうしていない。アイデンティティーってどっかに行ったからって〔得られる〕ものじゃないですよ。自分の中で見つけるものですよ」と語る彼女の言葉には、アイデンティティーの本質がよく表れている。12人の話を聞き終え、「哲学者」は一般の人の中にも存在するというグラムシの言葉に私も深く共感する。

参考文献

李良枝 (イ・ヤンジ) 『由熙 (ユヒ)』 講談社、1990
Gramsci, Antonio. Selections from the Prison Notebooks, edited and translated

by Quintin Hoare and Geoffrey Nowell Smith. New York: International. 1971.

福岡安則 『在日韓国・朝鮮人－若い世代のアイデンティティ』 中公新書、1993

福岡安則 『聞き取りの技法－＜社会学する＞ことへの招待』 創土者、2000

Becker, H. S., *Outsiders; Studies in Sociology of Deviance*, New York: The Free Press. 1978.

Hollan, Douglas., "The Relevance of Person-centered Ethnography to Cross-cultural Psychiatry." In *Transcultural Psychiatry*. 32 (2) : 219-234. 1997.

Sanjeku Roger ed., *Fieldnotes: The Makings of Anthropology*, Ithaca: Cornell University Press. 1990